

日 時：平成27年11月7日（土）10時～12時

場 所：校長室

出席者：学校協議会委員

門脇 英純（大阪成蹊大学）、里村 潔（箕面市立第六中学校校長）

篠崎 朗（本校同窓会長）

事務局員

山崎 政範（校長）、鎌田 啓（教頭）、貴治 康夫（教頭）、川上慶次郎（首席）

藤田 晋太郎（1年次主任）、森本 光展（教育相談係）、宮守 陽介（保健体育科）

内 容：【説明・報告事項】

1. エンパワメントスクールの状況 2. 教育相談体制の状況

【協議事項】

1. 平成27年度・学校経営計画の取組みの進捗状況について

2. 第1回 授業アンケートの結果の活用

【説明・報告事項】

（1）エンパワメントスクールの状況（藤田）

○行事について

・生徒一人ひとりの学校帰属意識を高めることを目的に行事の取組みに力を入れてきた。

（4月：オリエンテーション合宿、6月：球技大会、10月：学年運動会、文化祭ダンスバトル）

・球技大会や運動会では、体育委員を中心に生徒主体の運営を心がけた。文化祭では、観客席が保護者を含め8割方埋まり、生徒たちは緊張感のあるなか頑張って取組み、大変満足していた様子であった。

各行事を通して生徒の主体性も身についてきたと実感している。

○モジュール授業などについて

・概ね順調であるが、6月頃や夏休み明けは授業の雰囲気が重い時期もあった。

・学校生活や授業に集中できていない生徒に対して、保護者も含めた個別面談を行っている。

・11月現在では、授業の雰囲気も落ち着いている。

・生徒の能力や実態からすると、30分授業は生徒に合っていると感じている。

・モジュール授業の後の通常授業でやや集中力に欠ける様子が見受けられることもある。

・遅刻者には遅刻せずに学校に来ることが将来どのように役に立つのかも踏まえて啓発を行っている。

・キャリア教育の一環で、11月に進路ミュージカル、12月に生徒と企業の社長との面談会を行う。

（意見）

・モジュール授業での生徒たちの様子は？（里村委員）

→集中力に欠ける場合には教員間で連携をはかり、毎日の課題にきちんと取り組ませることを徹底し、学年集会で生徒に勉強に対する意識づけを行っている。（藤田）

・生徒の学校生活に対する主体性をどのように身につけさせるか？箕面六中ではノーチャイムデーを設けて様子をみたが。

→今後の検討課題である。（藤田）

・朝の10分学習はどんなことに取り組んでいるのか？（篠崎委員）

→認知トレーニングや論理的思考力を高めるためのドリルに取り組んでいる。（藤田）

- ・基礎学力が向上し、成長した生徒は多くいるのか？（篠崎委員）
→成長した生徒は多数いる。モジュール授業は習熟度別に行っているが、授業内容に物足りなさを感じている生徒もいる。また、教師自身もレベルの高い授業を行いたいという葛藤もある。学力の高い生徒には、来年度の科目選択についてきちんと説明し、丁寧な指導を行うことで生徒のニーズを満たすことができるように心がけたい。（藤田）
- ・教員側のマネジメントはうまくいっているのか？（門脇委員長）
→生徒指導も学年全体で行う意識があり、情報共有することを心がけている。E S 2・3期への橋渡しもきちんと行いたい。（藤田）
→E S 1期の担任団のマネジメントについては心配していない。（山崎）

（２）教育相談体制の状況（森本）

- ・個別の教育支援計画については現在、対象者の60％は作成できている。
- ・教育相談室の利用は不登校生徒数の抑制に繋がっている。
- ・めいぷるカフェについては毎日放送「VOICE」で報道され、反響をよんだ。
- ・E S 1期生については、例年と比べると不登校生徒数は激減している。
- ・スクールソーシャルワーカーと学校側との連携はとれており、支援体制は充実している。

〈意見〉

- ・外部との連携がしっかりととれており、生徒支援体制は充実している。（里村委員）

【協議事項】

（１）平成27年度・学校経営計画の取り組みの進捗状況について（山崎）

- ・パッケージ研修を活用して学校全体で教育力向上に向けて取り組んでいる。
- ・キャリア教育について
→今年度から新たな取り組みとして、大阪府中小企業家同友会と連携し、1年次生を対象としたキャリア教育を行う。内容は「社長と話そう」と題して、生徒と企業の社長との面談を行い、生徒に「働く」ということの意識づけを図る。
- ・本校の不登校率についてはE S 1期生が、例年の1年生に比べ、減少傾向である。
- ・学校ホームページの平日のアクセス数が200～300となり、昨年より格段に増えた。

〈意見〉

- ・ホームページの充実が生徒や教師の意識改革につながっていると推測する。（里村委員）
- ・何よりも生徒一人ひとりの生育環境、家庭環境をしっかりと把握した上で生徒とのコミュニケーションをとり、信頼関係を確立することが大切である。（篠崎委員）
- ・大学生を見ても社会人的能力が非常に低いのが現状である。高等学校のキャリア教育の見直しが必要ではないかと考えている。（門脇委員長）

（２）第1回 授業アンケート結果の活用（山崎）

- ・授業アンケートの授業満足度74％という結果となり、ほぼ目標通りの数値となった。
- ・全ての教員の授業を管理職が見学し、個別面談を行い、授業改善点などについて指導を行っている。

〈意見〉

- ・教師への評価は教育活動へのモチベーションの向上に繋がっているのではないかと。（里村委員）